

ガンジー種及びそのF₁の発育並びに産肉性

第1報 ガンジー種の発育性

久々宮仁三・*岩倉哲雄・石橋隆史・*御手洗善一郎・首藤邦彦 (大分県畜産試験場・*大分県畜産課)

Jinzo KUGUMIYA, Tetsuo IWAKURA, Takashi ISHIBASHI, Yoshiro MITARAI and Kunihiko SHUTO :

Performance of Guernseys and the First Cross

1. Growth of Guernseys

大分県久住町のM牧場にガンジー種(以下G種)が導入されたのを機に、我が国では不明である本牛の発育性能を調査し、雌牛の体高についてはホルスタイン種(以下H種)、ジャージー種(以下J種)及び黒毛和種(以下B種)と、去勢牛の体高・体重についてはB種と、それぞれ比較検討した。

1. 調査方法

1) 調査牛 米国からM牧場が導入したG種初妊牛40頭、育成牛32頭並びに導入後牧場で生産された子牛79頭(♂45頭, ♀34頭)について調査した。

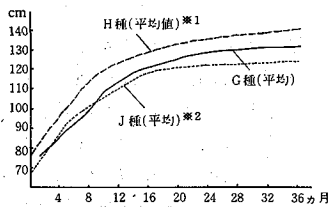
2) 調査期間 1988年3月10日から'89年12月13日までの21か月間。

3) 調査項目 雌牛については体各部位の測定(体高, 十字部高, 体長, 胸深, 胸幅, 尻長, 腰角幅, かん幅, 座骨幅, 胸囲), 去勢牛(生後3か月齢までに去勢, 6か月齢から肥育開始)については同体各部位及び体重を測定した。

4) 飼養管理 成牛はフリーストールで、乳期別に4群に分け管理し、子牛、育成牛及び肥育牛は追込牛舎で5~10頭の群飼。

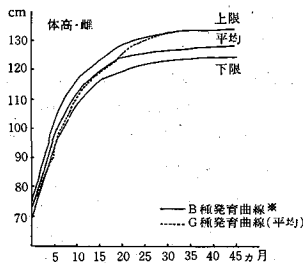
2. 結果及び考察

1) G種雌牛 体高についてH種及びJ種との比較を示すと第1図のとおりで、G種の発育曲線は、ほぼH種とJ種の中間の値を示した。次にB種発育曲線との比較を第2図に示した。G種発育曲線は20か月齢まではB種



第1図 体高(雌)の比較

注) *1日本ホルスタイン登録協会1983 *2日本飼養標準(乳牛)1987



第2図 G種とB種の発育比較

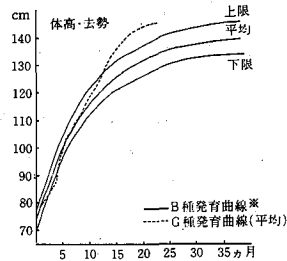
注) *全国和牛登録協会1990年12月

発育曲線の下限~平均を、それ以降は平均~上限の間を推移し、31.7か月齢で133.3cmと上限近くまで達した。また胸囲は29.5か月齢で188.5cmとほぼB種の平均に近い値を示した(30か月齢B種胸囲:平均188.6cm)。

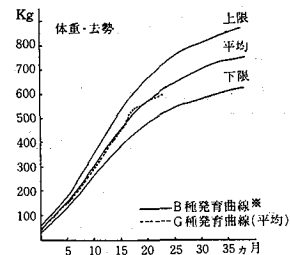
2) G種去勢牛 体高及び体重についてG種発育曲線をB種発育曲線と比較したものが、第3図、第4図である。体高では、G種発育曲線は9か月齢まではB種発育曲線の下限から平均を推移していたが、それ以降は平均を超え14か月齢では上限も上回り、23.5か月齢で144.2cmと上限を約4cm上回る値に達した。体重ではG種発育曲線はB種発育曲線のほぼ平均の上を推移した。また胸囲は23.5か月齢で208.9cmとB種のほぼ平均に近い値を示した(24か月齢B種胸囲:平均213.7cm)。

3. まとめ

G種雌牛及び去勢牛の発育状況の検討を行った。H種及びJ種との比較から、G種雌牛はH種とJ種のほぼ中間の発育を示すことが判明した。またB種発育曲線との比較から、G種は雌・去勢ともB種に比べて体高が高く、雌雄の性差が大きい。また雌では20か月齢、去勢では10か月齢頃から急激に体高が伸長するという晩熟性が見られる点などが判明した。一方、去勢の体重はB種の平均とほぼ同様な増加を示し、雌・去勢の胸囲(成時)もB種の平均と同程度であった。



第3図 G種とB種の発育比較



第4図 G種とB種の発育比較